

SAKUらいぶ 46号

図書館だより 平成25年11月号

作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部 図書館

[内容]

- ・私のお薦め図書
- ・SAKUらセレクト
- ・NewFace 登場
- ・季を愛でる
- ・らいぶ Question
- ・図書館開館カレンダー
- ・本のお持ち帰りコーナー設置

私のお薦め図書

作新学院大学 経営学部准教授 小山さなえ

秋の夜長の過ごし方としては、家で静かに落ち着いた時間の中で、音楽を聴いたり、映画を見たり、そして「読書にふける」。そんな優雅な時間を過ごしてみたいと思っています。「このジャンル」「この作家」のこだわりはなく、自分でいいなと思った本を手にとって読んでいます。そんな私のお薦めの本。

私の大学院時代の友人で門脇正法というユニークな作家がいます。修士論文のテーマが「スポーツマンガのマネジメント？」（正確なテーマ名は忘れましたが）でした。そして、現在もマンガ原作者、スポーツライターとして、少年ジャンプやヤングジャンプなどで活躍しています。著書に『バクマン、勝利学』、『「崖っぷち監督」がメダリストを二人生むまで』など多数あります。

閑話休題

自分の本棚を覗いてみると、女性作家が多いことに気がつきました。その中でも、9月29日に亡くなった山崎豊子さんの作品は、社会性のあるテーマに切り込んだスケールの大きな作品が多く、フィクションではありませんが近代日本を理解するうえで参考にできる私のお薦めの本です。世の中の不条理を許さず、徹底した現場取材に基づき、まさに「命がけの作品」は有名です。病院・医療業界の腐敗を描いた『白い巨塔』、日航ジャンボ機墜落事故をテーマにした『沈まぬ太陽』、第二次世界大戦後シベリア抑留になった日本人を描いた作品『不毛地帯』などは読み応えがあります。





～本学図書館にある珠玉の1冊を紹介します～

『ムッシュ・クラタ』山崎豊子全集9 山崎豊子 著 新潮社 刊 913.68/Ya/9

9月に作家山崎豊子が亡くなった。

『白い巨塔』『華麗なる一族』『沈まぬ太陽』など映像化された小説を数多く書いているため、その名や作品を知っている人は多いかと思う。

山崎豊子は鋭い着眼点と丹念な取材から「社会派」と呼ばれているが、長編小説のほかにも優れた短編・中編小説を残している。ここでは短編の『ムッシュ・クラタ』を紹介する。

この物語は主人公の「私」が同じ新聞社に勤めていた倉田という人物に興味を持ち、彼の没後に知人たちを訪ね歩くという物語である。

倉田は終戦直後の、まだ復員服を着た社員が見かけられる新聞社でチャコール・グレーのスーツを着こなし帽子と手袋をつけていた。私をフランス料理の席に招いた際にはボードレールの詩を口ずさみ、見事な作法で食事をした。倉田のフランス流はキザを通り越して嫌味なほどで、周囲からは「ムッシュ・クラタ」と呼ばれていた。

そんな倉田の訃報を知り私が通夜に訪れると、その住まいは生前の倉田からは想像もできないほど、簡素で古く狭く侘しいものであった。私は倉田の知人たちに、学生時代から亡くなるまでの様子を聞き訪ねたが、そのパズルのピースを合わせると思いもよらない倉田像が組み上がるのだった。

第二次大戦末期の昭和20年、報道班員として赴いていたフィリピンで米軍に追われた倉田は、山中を逃げ回る間にも髭を剃り、ズボンに寝押しをし、ダンヒルのパイプをくわえて本を読んだ。その徹底したスタイルに班員たちは鼻白んだ。しかし、若い見習士官が死ぬとその墓穴をブーゲンビリアで飾り、現地で自給自足の暮らしをして泥に汚れた女には、隠し持ってきたフランス製の香水をそっと手渡す倉田に班員たちは真のダンディズムを見た。明日の命の保証も無い中、倉田が本を読んでいる限りは生き続けられるような希望を見出すのであった。

日本へ戻ってからの倉田は質素な暮らし向きで、それでも給料の大半で洋書を買ひ、一流でなければ生半可の西洋風はいけないと妻の服装や調度品については質素を旨としていた。

倉田ほど自分の人生を純粹に誇り高く生きた人間はいない。倉田をよく知る多くの人がそうしたように、私も畏敬を込めて「ムッシュ・クラタ」と彼を呼んだ。

NewFace 登場



～新しく作大に配属になった職員からのメッセージです～

図書館と本

会計課 篠崎桂子

私が図書館に行く時は、読みたいと思う本を探す時です。

図書館には、本屋さんには置いていないものもあります。いろいろな種類の本・雑誌がたくさんあります。だから図書館に行くとあちらこちらと歩き回ります。読みたい本以外にも本を手にとって眺めたり読んだりします。その時間はとても楽しくてあっという間に過ぎてしまいます。1時間では物足りないほどです。

本を読んでいると時間を忘れ、読み続ける事もあります。本はいろいろと参考にする事もあります。また、本の内容がわからなく、つまらなくなり途中で読むことをやめてしまう事もたまにはあります。

今までは学校の図書館に行く機会がなくて残念でしたが、これからは時間を作り学校の図書館でも本を探し、気に入った本を読んでいきたいと思っています。



季を愛でる

は ざ
稲 架

稲架は、稲を刈った後乾燥させるために天日に干す木組みである。稲を下向きに、架に掛け連ねる。東北辺りでは、一本の柱に稲束を寄せ掛けて積む稲積みなどもある。この時期立ち並ぶ稲架襖は、情景を変えるほどの力がある。

天日をどつかと集め稲架襖

千秋



らいいび Question



書き込む前にまず知ろう 『事例に学ぶ情報モラル』 より

インターネットは不特定多数の人が利用する「公共の場」です。実生活と同じように人に対する配慮や(①)、マナー、倫理観が求められます。また、実生活と同じように、多くの人たちの(②)があり、非常識なふるまいは必ず見つけられ批判されます。そして(③)をおかせば大きなペナルティーが待っています。

図書館にある資料から出題します。答えはカウンターにある解答用紙に記入してください。全問正解で1ポイントです。今年度中に5ポイント集めた方には、記念品を贈呈します。

図書館開館カレンダー 11月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

	9:00~18:00		休館日
	9:00~13:30		9:00~18:45

本のお持ち帰りコーナー設置

本のお持ち帰りコーナーを図書館入口に設けました。

どうぞご自由にお持ちください。



~~~~~ 発行・編集 ~~~~~  
作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部 図書館  
Tel 028-670-3651・3652  
Fax 028-670-3619  
E-mail [tosyo@sakushin-u.ac.jp](mailto:tosyo@sakushin-u.ac.jp)  
URL <http://www.sakushin-u.ac.jp/library/>

